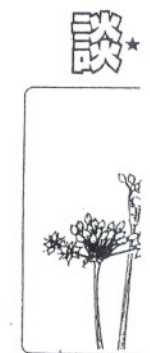


は現場にあるんだから、いまの行政システムの中で苦労しているものを取り除き、最大限自由に工夫させ



編纂委員 長野和夫



ニラ(フ)

寄りの指導の下、伝統的な石組みに。日英合同の楽しい体験でした。
(和歌山県橋本市 地方公務員) 北森久雄 57

命今された娯楽施設の怪

最近の北京訪問で気になったのは、一九九三年国連が北京で開く女性の人權に関する会議のこと。私は一年前の一九九三年九月、国連がウィーンで開いた世界人權會議に、同問題の關係から参加した。そのとき直面した課題は、第二次世界大戦中、日本がアジアの戦場で、女性の人權を侵したという課題、いわゆる慰安婦の問題

正論

題である。NGO(国連が認めた民間団体)の側からも、きびしい追及があった。

日本側は、その問題に関して十分な準備がないので次の国連の集會に報告するとして、ウィーンでは問題にならなかつたが、次の国連の集會は、問題もそのものさばりの、女性の人權である。日本政府は少なくとも来年の集會までに何らかの対応を国民にも知らさなければならぬ。最近一応の案を出しているが、それで済むの

地域改善啓発センター理事長 磯村 英一

日本軍だけでない慰安婦問題

直接その問題にはかわりがない私が、発言をするのは、この慰安婦の問題は、決して日本の軍隊だけでなかったという事実を、私

である。僅か一、二週間の間に占領軍の兵隊のためにワシントン・ハイット等という名の宿舎の建設が命令され、将校たちのためには、洋式のトイレの住宅を接收し、提供した。敗戦年のクリスマス、司令部の将校から呼ばれて、ヨシワラ

占領軍へサービス提供で反省

料を支給すると約束してバラック建ての、サービス・センターに来てもらった。その理由として、日本の、一般の女性の操を守るためにとって頭を下げた。こんな犠牲を強いた私自身が、人権などという言葉を口になど出せるものではないと反省している。

を使ってサービスを求めたことはどうなるのか。この一文を書くために、その当時、私の命令事実には勝者の強制を背後にして一によって、サービスをしたと思われる人を訪れたが、昔の恥を思い出させるのか、という返事に返す言葉がなかった正直に、敗戦の中で女性をそのような環境に追いやったことに、返す言葉をもちたい。

の状態の報告を命ぜられた。もちろん、その地区は焦土と化していた。命令は宿舎を造って、占領軍の兵隊のために、女性を集めるということだった。

命令は英語で、レクリエーション・センターの設置である。最初は室内運動場の整備だと思つたが、そうではない。旧、ヨシワラ、のそれであった。敗戦直後の東京の行政は、女子供はできるだけ地方に分散するようにという命令が出され、占領軍の兵隊のための宿舎をつくる努力さえも不足の状態だった。しかも外国の兵隊は、鬼畜とさえ教えられたのを、改めてそのようなサービスを提供するなどできるものではなかつた。

自身が経験しているからである。日本の終戦直後、私は東京都の渉外部長で、占領軍司令部の命令に、サービスを提供する役割を課された。戦勝者の命令は絶対

しかし、市民の中には、食べ物も少なく、中にはチョコレート一個で身体を売るような話まで広がっている。やむを得ず焼け残った、地区の人々に、文字通り、食



「昔の恥を」と詰問される

直接話して、お国のため、という言葉を使ったことを覚えてい。もし仮にいわゆる、慰安婦問題に関して国連の舞台で、日本政府が外国人の慰安婦に何らかの措置をとる場合、そのような言葉

来年、北京で日本軍の、慰安婦の問題がどう提起されるか知らない。しかし国連加盟の前に自分の国の女性が文字通り、戦争の犠牲、それも外国人のためになっていた問題について私は黙ってはいられない。戦争というものが、もしこのように一見、ムツン、ともみえる

敢えてこの問題を、政治的課題としてとりあげるのではないが、余りにもこの半世紀の経過に無神経すぎる政治の現状に反省を促したい。
(いそむら・えいいち)

そして我々日本人は、私が強く反省した。私を証人に立てて再び恥をさらすのですか、という反論の言葉に象徴される、弱きゆえの犠牲、に対して、終戦から五十年目を迎えるに当たって、一億の国民の反省、があつてもよいのではないか。

敗戦が終戦と置き換えられて五十年、この半世紀の日本の変化のなかに、日本人にとって敗戦とは何であったか、といった反省が足りないように思える。否、それどころではない。一步誤ればその当時よく使われた、玉碎、という美しく見える表現のなかに、真の人權というものを忘れる恐れさえ感じ